

## 家守る小さき手仕事積み重ね

山崎陽子 64歳

知り合いもない長岡に嫁いで38年になります。会社人間だった夫より、長い時間義母と一緒にでした。なれない土地の行事・習慣・家事、ここで暮らしていくためのすべてを教わりました。共に働く小さな手仕事の繰り返しが家を守る大切な事と教えられ、今身にしみて分かるようになった気がしています。「何時までも生きて仕事にいそしまん また生まれ来ぬ この世なりせば」植物学者の牧野博士の歌に共にうなずき合うこのごろ。教えてもらった協働は私の生活の全てになっており、これまでこられた事、義母の力の大きさに本当に感謝しています。

## II 市民協働 story II

全てを肯定すれば、何の争いも起きないということをお二人を見て感じます。認め合い尊敬し合い、自分に出来ることを積み重ねていくことを日の常としている。容易なようで難しい、しかし家族という最小の単位がいかに大切かということ。それが出来ている素敵な家族です。



苦労は忘れた 今が一番幸せ

愛読書は源氏物語

山崎カズイ  
101歳

山崎カズイさんは明治44年5月6日生まれの101歳。旧越路町釜ヶ島で養蚕業と雑貨商を手広く商う家から、長岡市蔵王の地主山崎家に嫁ぎました。新婚旅行は金峰神社、綺麗な花嫁を自慢したくて町内を一周したと、13年前に亡くなった舅が晩年よく話してくれたと、長男の嫁陽子さん。一男三女に恵まれ、孫は9人、曾孫は11人。何不自由なくいられた娘時代、戦中戦後の激動時、家を守り家族を守るのに懸命だった事、戦後初めて田んぼに入った時の事、今の愛読書は源氏物語と信用金庫の冊子「楽しいわが家」など、おしゃれで人に会うのが大好きなカズイさんのお話は尽きません。100年間で一番の思い出をお尋ねると「苦労は忘れた。今が一番の幸せ」と話して下さいました。玉川遠州流茶道教授陽子さんの指先が黒くなるのはかわいそうと今でも露やずいきの皮むきをかって出る。今年は、畑に何を植えるか興味津々のカズイさんはいつも家族の真ん中にいます。好物は、豚カツの脂身部分。色白できめの細かい若々しい肌はそのせいでしょうか。何でも食べ、何より生きたいという意欲がカズイさんの長寿の秘訣のようです。協働のお相手は、何でも優しくすぎないようにしているという、長男の弘さんと陽子さんのようです。

